

五島市奥浦地区におけるまちづくりと施設の変遷から見る住民生活に関する研究

北村知聖*・安武敦子**

A study on the lives of residents from the perspective of community development and changes in facilities in Okuura area of Goto City.

by

Chisato KITAMURA*・Atsuko YASUTAKE**

Goto City has a declining population and an aging. Therefore, it has an established community development council in 13 districts, including the Okuura district. Through these councils, residents and the city hall are working together on area management in various areas. This has enabled them to take detailed initiatives that the government alone could not manage. As a result, the sustainability of the area is improved. On the other hand, in Goto City, some churches registered as World Heritage sites are attracting attention. In addition to supporting the lives of the elderly, the Okuura district, with its famous Dozaki church, has been conducting activities targeting tourists. As a result, cafes and guesthouses for tourists are increasing in the area and as the number of tourists puts on, the employment and transferees are increasing. In this way, the Okuura district is engaged in a variety of projects, and is considered to be one of the most advanced areas in Goto City.

Key words: Remote island, Area management, Local resident, Inhabitant life

1. はじめに

1.1 研究背景と目的

離島は物資や雇用，進学先が少ないため，特に若い世代が島外に出て行く傾向にあり，地域活動の担い手不足が課題となっている。長崎県の五島地域は，江戸時代後期に隠れキリシタンが数多く入植したため，小離島や溺れ谷，山間地などに数多くの集落が見られ，居住条件が厳しいため，地区では，人口減少が著しく，過疎化に伴って地域社会の持続が主要な問題となっている。その中で，地域活性化や人口維持を目的として13地区でまちづくり協議会を設立し，住民主体のまちづくりを行っている。特に福江島の北東部で，中心市

街地から約 6.5 km位置する奥浦地区は，町内会活動が盛んであったため，モデル地区としてはじめにまちづくり協議会が設立された。一方で，五島市は2018年に教会群がユネスコの世界遺に登録され，注目を浴びるようになった。そこで，堂崎教会を観光資源としながら，五島市の中でも先進地として様々な活動を行っている。

本稿では長崎県五島市を対象に地域住民と行政が連携したまちづくりについて探るとともに，先進地として活動する奥浦地区の事業や施設の変遷からまちづくり協議会の有効性と住民生活についての知見を得ることを目的としている。

令和3年12月20日受理

* 工学研究科 (Graduate School of Engineering)

** システム科学部門 (Division of System Science)

1.2 研究方法

国勢調査や五島市統計書及び奥浦地区の広報誌から、五島市全体及び奥浦地区の人口や世帯数、主要観光施設の訪問者数、観光客の推移を明らかにする。また、住宅地図から奥浦地区の施設の変遷を探る。まちづくりに関しては、2020年9月に元奥浦出張所所長で現在東京事務所所長の磯沖氏と2020年11月に奥浦まちづくり協議会設立当初にまちづくり協議会に携わっていた白濱氏にヒアリング調査を行った。さらに、まちづくり協議会13地区の事業の変遷及び住民の事業に対する満足度について、各地区の集落支援員にアンケート調査を行い、事業と満足度の関連性を探る。また、奥浦まちづくり協議会が行った住民アンケート^{注1)}から、奥浦地区の各事業の成果を把握し、今後の課題について考察する。

2. 五島市の概要

2.1 五島市の人口、世帯数、観光客数推移

国勢調査による五島市の地区別人口推移は、福江のみ1954年の統合による一時的な人口増加がみられるが、それ以降はどの地区においても人口減少が進行しており、五島市全体では1955年の91,973人から2015年の37,327人と約4割に減少している。世帯数は、病院や買い物施設等の機能が集約している福江以外は年々減少している。

一方で、市へのヒアリングによると、2015年以降の五島市への転入者627人のうち20代が23%、30代が27%と若い世代の転入者が半数以上を占めていることが分かった。東京圏からの新規転入者に対する移住支援制度や定住支援補助金により、転入者を積極的に取り入れる制度を設けていることが一因だと考えられる。五島市の社会増減^{注1)}は、2018年までの転出超過から、2019年は転入超過となっている（Fig.1）。

また、観光客数は2002年の235,876人から、その後は減少傾向にあった。しかし、2018年の世界文化遺産への登録以降観光客が増加している。奥浦地区にある堂崎教会は2016年の21,996人から2019年には39,443人へ約1.8倍に伸びている。

3. まちづくり協議会概要

3.1 各まちづくり協議会の取り組み

五島市は、高齢化や独居高齢者の増加、子育て機能の低下、祭りや年中行事の継続困難による地域文化の衰退などの状況を改善するため、2013年に奥浦地区をはじめとする13地区にまちづくり協議会を設立した（Fig.2, Table1）。まちづくり協議会では、13地区で

5,000万円程度の交付金を得ながら（各地区140万～550万）、住民と行政が一体となって地域課題について考え、解決に取り組んでいる。また、各まちづくり協議会事務局には集落支援員がおり、地域課題の把握と地域の情報発信を行っている。まちづくり協議会の事業は、大きく分けて町内会から継続されているものと新規事業がある。13地区の平均は町内会からの継続が約35%、新規事業が約65%と新規事業が多く、交付金を得たり、行政と連携したりすることで事業の幅が広がっている。また、梶島、緑丘、福江以外の10地区は事業ごとに担当部会があり、それぞれの事業を各部会で分担しながらまちづくりを行っている。

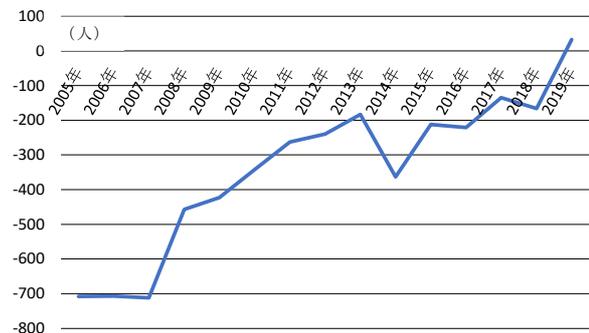


Fig. 1 五島市の社会増減



Fig. 2 各地区の位置

Table 1 各まちづくり協議会の

	集落人口	まちづくり協議会設立年月日	部会数	事業数
奥浦	980	2013年11月18日	5	43
奈留	2,025	2014年2月24日	5	37
三井楽	2,547	2014年3月17日	4	28
梶島	120	2014年9月25日	0	17
大浜	697	2014年9月27日	4	19
崎山	1,601	2014年10月24日	5	36
富江	4,412	2014年11月13日	3	31
本山	2,341	2014年11月29日	2	17
久賀島	299	2015年1月28日	1	23
玉之浦	1,253	2015年2月5日	4	39
緑丘	8,701	2015年2月10日	0	16
岐宿	3,136	2015年2月12日	4	48
福江	8,088	2015年3月24日	0	13

3.1.1 奥浦まちづくり協議会の取り組み

奥浦地区は福江島の北東部約 6.5 km に位置し、15 の町内会に分かれており、集落人口は 980 人である。奥浦地区はカクレキリシタンに関するキリスト教関連遺産である堂崎天主堂があり観光名所となっている。奥浦まちづくり協議会は、五島市が進めている「地域の絆再生事業」のモデル地区として選定され、2013 年 11 月 18 日に設立され、地域振興部会、防犯防災部会、保健福祉部会、環境保全部会、体育文化部会の 5 つの部会で構成され、これまでに 43 の事業を行ってきた。

3.1.2 奈留地区まちづくり協議会の取り組み

奈留地区は、奈留島、前島、葛島の 3 島から成り、集落人口は 2,025 人である。地区内には、保育園から高校まで揃っており、小学校から高校までは小中高一貫教育を実践している。小中学校ではしま留学生、高校では離島留学生を地域で受け入れており、2021 年からは、島内外から寄付を募って建てられた離島留学生の寮兼地域のコミュニティスペース「しまなび舎」を始め、「教育の島」としても力をいれている。奈留まちづくり協議会は、2014 年 2 月 24 日に設立され、町内会活動部会、教育文化部会、地域振興部会、文化・教育部会、福祉部会の 5 つ部会で構成され、これまでに 37 の事業を行ってきた。また、奈留地区まちづくり協議会で公式 LINE やホームページを立ち上げるなど、独自の取り組みも行っている。

3.1.3 三井楽まちづくり協議会の取り組み

五島福江島西北に位置し、集落人口は 2,547 人となっている。海水浴場は、日本の渚百選と快水浴場百選、日本の海水浴場 88 選に選ばれている。三井楽地区の嵯峨島は、全島が火山の島で西海国立公園や日本の秘境百選に指定され、火山海蝕崖や千畳敷も名勝地となっている。また、郷土芸能『嵯峨島のオーモンデー』と『貝津の獅子こま舞』は県の無形民俗文化財に認定されている。三井楽まちづくり協議会は、2014 年 3 月 17 日に設立され、町内会活動部会、文化・教育部会、まちおこし部会、安全安心部会の 4 部会で構成され、これまでに 28 の事業を行ってきた。

3.1.4 梶島地区まちづくり協議会の取り組み

梶島は福江港から 1 日 3 便、片道 30 分程度であり、福江島の北東に位置している。働いている人の多くは漁師であり、人口減少・高齢化が著しく進んでいる。梶島は集落人口が 120 人と少ない中、町の役員や、有志の方に会員となってもらうことで活動している。梶島地区まちづくり協議会は 2014 年 9 月 25 日に設立され、これまでに 17 の事業を行ってきた。

3.1.5 大浜地区まちづくり協議会の取り組み

大浜地区は、福江島の南部に位置し、集落人口 697 人である。香珠子海水浴場、大浜海水浴場が地域住民や観光客に人気の場所となっている。大浜地区には現在約 370 世帯の住民が暮らしており、近年では UI ターンの移住者も増えている。大浜地区まちづくり協議会は、2014 年 9 月 27 日に設立され、地域振興部会、防犯・防災部会、環境保全部会、保健福祉部会の 4 つの部会で構成され、これまでに 19 の事業を行ってきた。

3.1.6 崎山地区まちづくり協議会の取り組み

福江島の南東部に位置し、集落人口 1,601 人で構成されている。崎山地区は、鬼岳、火の岳の山麓、箕岳、臼岳の 4 山に囲まれており、牧草、葉タバコ、ジャガイモ、豆類等の畑も広がっている。崎山地区まちづくり協議会は、2014 年 10 月 24 日に設立され、安全安心環境部会、保健福祉部会、文化・スポーツ部会、地域振興部会、青少年育成部会の 5 つの部会で構成され、これまでに 36 の事業を行ってきた。地区内にはチャンココ、ヘトマト（国指定重要無形民俗文化財）の伝統行事があり、地元子どもたちへの継承に力を入れている。

3.1.7 富江まちづくり協議会の取り組み

富江地区は福江島の南に位置し、32 地区 4,412 人で構成されている。陣屋石倉、指定無形民俗文化財オネオンデなどの歴史的文化遺産が数多く残されている。富江まちづくり協議会は、2014 年 11 月 13 日に設立され、地域コミュニティ部会、文化・教育部会、まちおこし産業振興部会の 3 つの部会で構成され、これまでに 31 の事業を行ってきた。

3.1.8 本山地区まちづくり協議会の取り組み

本山地区は福江島の西南部に位置し、8 地区 2,341 人で構成されている。田んぼが多いため、田植え・稲刈りなどの風景が見られる。本山地区まちづくり協議会は 2014 年 11 月 29 日に設立され、地域安全振興部会、住民健康増進青少年育成部会の 2 つの部会で構成され、17 の事業を行ってきた。

3.1.9 久賀島まちづくり協議会の取り組み

五島列島で 3 番目に大きな島であり集落人口は 299 人である。国の重要な文化的景観に指定された豊かな自然や生活文化、五輪教会堂を含む島全体の集落が世界遺産の構成資産にも選ばれている。久賀島地区まちづくり協議会は 2015 年 1 月 28 日に設立され、地域福祉部会があり、これまでに 23 の事業を行ってきた。豊かな自然がある反面、雑草、樹木が絶好の景観・眺望を阻害している所もあるため、「集落環境整美」では、伐採作業や除草作業に取り組んでいる。

3.1.10 玉之浦まちづくり協議会の取り組み

福江島の西端に位置しており、集落人口は 1,253 人である。古民家をリノベーションした「古民家松ノ下」をはじめ、島外からも多くの人を訪れる井持浦教会ルルド、大宝寺、大瀬崎灯台など観光名所も多く存在している。玉之浦まちづくり協議会は 2015 年 2 月 5 日に設立され、町内会部会、市民生活部会、文化・教育部会、地域振興部会の 4 部会で構成され、これまでに 39 の事業を行ってきた。

3.1.11 緑丘地区まちづくり協議会の取り組み

緑丘地区は 17 町内会あり、病院が移転してからは、住宅街と言われるほど人口も増え、五島市で一番子どもたちが多い地区となった。緑丘地区まちづくり協議会は 2015 年 2 月 10 日に設立され、緑丘小学校区の町内会及び公民館長と公民館主事を主に構成され、これまでに 16 の事業を行ってきた。福江と同様に五島市の中では、人口減少が比較的緩やかな地区であり、集落人口は 8,701 人あるが、これからの人口減少に備えて、緑丘地区が一体となって子どもから高齢者まで安心して住めるまちづくりに取り組んでいる。

3.1.12 岐宿まちづくり協議会の取り組み

福江島の北部に位置し、福江島の 4 割の面積を占める。集落人口は 3,136 人である。父ヶ岳をはじめ、東南西に山々が連なり、山内盆地は島内最大の水田地帯となっている。魚津ヶ崎公園や海岸線は景勝地として西海国立公園に指定されている。保育園から高校、病院や介護福祉施設もあり、子どもから高齢者まで安心して暮らせる町である。岐宿まちづくり協議会は、2015 年 2 月 12 日に設立され、町内会活動部会、教育文化部会、地域振興部会、地域安全安心部会の 4 つの部会で構成され、これまでに 48 の事業を行ってきた。

3.1.13 福江地区まちづくり協議会の取り組み

港や空港がある福江地区は、五島市民だけではなく、観光客や仕事関係者が毎日出入りしており、五島市の市街地となっている。福江地区まちづくり協議会は 2015 年 3 月 24 日に設立され、福江小学校区の町内会

及び公民館長、公民館主事で構成され、これまでに 13 の事業を行ってきた。福江地区は、他地区に比べると人口減少が緩やかな地区であり、集落人口は 8,088 人であるが、これからの人口減少に備えて、地域の絆再生に向けた組織を福江地区全域に波及させる取り組みを行っている。

3.2 各地区の事業に対する満足度の比較

Table2 の 12 項目に関して各地区の集落支援員に満足度評価のアンケートを行った。12 項目は、奥浦地区で行われた住民アンケート²⁾を参照した。また、満足度評価の結果と事業、部会の有無を Table2 に示し、満足度と事業、部会の関連性について分析する。

3.2.1 地域の集落内の付き合いに関する満足度

地域の集落内の付き合いについては、福江、緑丘、枕島以外の 10 地区がやや満足と回答し、五島市全体として満足している傾向にあるので、離島ならではの助け合いの濃い社会関係が要因であると考えられる。福江、緑丘は福江港に近く、人の出入りも多いため、伝統的な助け合いの関係は他の地域と比較すると希薄であると考えられる。また、この項目に直接係る事業はないが、2 項目目から 11 項目目の事業の中で、地域住民同士の交流の場が生まれていると考えられる。

3.2.2 環境保全・美化に関する満足度

草刈り・河川清掃・植樹などの環境保全・美化については、奥浦のみ満足と回答し、緑丘、崎山、富江、本山、玉之浦、岐宿、久賀島の 7 地区でやや満足であるため、五島市全体として満足度が高い。満足、やや満足と回答した 8 地区のうち、7 地区が事業も部会もある。特に満足と回答した奥浦では、環境整備事業やフラワーロード事業を行っており、定期的に河川清掃や除草作業、季節の花の植樹を地域住民で定期的に行っている。一方、やや不満の三井楽と福江に関して、福江は事業としての取り組みはないが三井楽は事業も部会もある。

3.2.3 地域の祭りや伝統文化の継承に関する満足度

地域の祭りや伝統文化の継承については、緑丘、崎

Table 2 各項目に対する満足度と事業及び部会

	福江	緑丘	崎山	富江	本山	三井楽	玉之浦	大浜	岐宿	奈留	久賀島	枕島	奥浦
1 地域や集落内の付き合いについて	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-
2 草刈り・河川清掃・植樹などの環境保全・美化について	-/-	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	-/-	○/○	○/○	○/○
3 地域の祭りや伝統文化の継承について	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
4 史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動について	-/-	-/-	○/○	○/○	○/○	-/-	○/○	○/○	-/-	-/-	○/○	-/-	-/-
5 避難訓練・見回りなど、防犯・防災活動について	-/-	○/○	-/-	○/○	○/○	○/○	-/-	○/○	○/○	-/-	-/-	○/○	○/○
6 敬老会など、主に高齢者対象の行事について	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	-/-	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
7 見守り、配食サービスなど、生活支援活動について	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	○/○	○/○	○/○	-/-	○/○	○/○	-/-
8 買い物・通院など、移動支援活動について	-/-	-/-	-/-	○/○	-/-	○/○	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	○/○
9 地区運動会など、地域のスポーツについて	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	-/-	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
10 子供会など、主に子ども対象の行事について	-/-	-/-	-/-	-/-	○/○	○/○	-/-	-/-	○/○	-/-	○/○	-/-	-/-
11 住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動について	-/-	○/○	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-
12 広報紙や回覧板など、地区内での情報共有について	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-	-/-
									満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
									事業の有無/担当部会の有無(有○、無し-)				

山、富江、本山、岐宿、久賀島の6地区でやや満足であった。このうち緑丘以外の5地区で事業と部会がある。やや満足であった地区はそれぞれ、崎山地区の史跡保存整備事業、本山地区の市指定無形民俗文化財(吉田の綱引き保存事業)、富江地区の市民文化祭運営支援事業指定無形民俗文化財保活動支援事業、本山地区伝統芸能(チャンココ)保存事業、翁頭中学校生徒伝統芸能チャンココ継承事業、岐宿地区の鬼神太鼓保存事業、久賀島の地域の伝統・文化継承事業があり、伝統文化を継承するための事業が行われている。やや不満であった富江は、事業はあるが部会はない。

3.2.4 地域の歴史に関する保全・管理活動に関する満足度

史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動については、富江、久賀島でやや満足であり、2地区とも事業と部会がある。富江は指定無形民俗文化財保存活動支援事業に加えて歴史探訪事業費助成事業、狩立オネオンデ保存事業費助成事業を行っており、久賀島では地域の伝統・文化継承事業を行っている。

やや不満であった富江、大浜は2地区とも事業がなされていない。

3.2.5 防犯・防災活動に関する満足度

避難訓練・見回りなど、防犯・防災活動については、緑丘のみ満足で、事業はなされているが部会はない。やや不満、不満の崎山、三井楽、奈留、久賀島、玉之浦の5地区に関して、三井楽以外の4地区は事業がなされていない。満足の緑丘は防犯・防災ハザードマップ作成事業を行っているが、富江では町内危険箇所目標識設置、本山では地域を守る！自主防災活動補助事業、三井楽では高齢者緊急連絡先配布事業、玉之浦では一人暮らし緊急時対策事業、大浜では防災対策事業、岐宿では自主防災組織組織図づくり事業、奥浦では奥浦地区避難訓練・避難所整備事業を行っており、他の地区でも防犯や防災に関する事業があるため、事業以外の要因で満足度に差が出たと考えられる。

3.2.6 高齢者対象の行事に関する満足度

敬老会など、高齢者対象の行事については、本山地区のみ満足で、事業と部会がある。やや満足であった緑丘、崎山、富江、大浜、岐宿、奈留の6地区のうち、5地区は事業と部会があり、緑丘は事業があるが部会はない。この項目に関しては、五島市全体として満足度が高い。

3.2.7 生活支援活動に関する満足度

見守り、配食サービスなど、生活支援活動については、満足またはやや満足と回答した地区はなく、富江、崎山、玉之浦、大浜、奈留、久賀島、奥浦の7地区で

やや不満で、五島市全体として満足度が低い傾向にある。やや不満の7地区のうち、富江と奈留、崎山以外の4地区では事業も部会もある。玉之浦、大浜、久賀島の事業は2020年以降に始めた事業であるため、今後継続していくことで満足度が上がると考えられる。また、高齢者が多いため生活支援の対象が広く、さらに若い世代が少なく人手不足なため、高齢者一人一人を支えることが困難になっていると考えられる。

3.2.8 移動支援活動に関する満足度

買物・通院など、移動支援活動については、富江のみ満足で、満足の富江は事業と部会がある。富江地区は、比較的市街地に近いことや、地域支援「愛」移動支援事業が満足度が高い要因であると考えられる。

一方、富江、崎山、大浜、岐宿、奈留、久賀島の6地区でやや不満、玉之浦で不満であるため、五島市全体として満足度が低い。やや不満と不満の7地区は全て事業がなされていない。五島市は店舗や病院の数が少ないため、学校帰りや仕事帰りに日用品を買いに行けないことや、車での移動が主な交通手段となっている。車を運転できない高齢者の移動が困難であること現状にあり、奥浦地区は買物弱者支援事業で、高齢者を対象に老人介護施設と連携し、見守りも兼ねた買物支援策を提供している。また、奈留地区集落支援員の鎌田氏によると、現段階で買い物には困ってはいなくても、店主が移動したり高齢で働けなくなったりすることで店が潰れ、一気に買い物が高齢要因になる等、離島では一人に頼っているため、状況が変化しやすい。そのため、将来に不安を抱いていることも満足度が低い要因として考えられる。

3.2.9 地域のスポーツに関する満足度

地区運動会など、地域のスポーツについては、緑丘、富江、本山、三井楽、大浜、岐宿の6地区でやや満足であり、緑丘は事業のみで、他5地区は事業と部会がある。やや不満であった奈留も事業も部会もある。五島市では、各地区から集まって開催されるペタンク大会やマラソン大会があり、それらの活動が他地区との交流の場となっている。

3.2.10 子ども対象の事業に関する満足度

子ども会など、子ども対象の事業については、緑丘、富江、本山、岐宿の4地区でやや満足であり、このうち2地区では事業と部会がある。やや不満の玉之浦、久賀島に関して、玉之浦は事業がなされていないが、久賀島は事業と部会がある。不満であった奈留では事業としての取り組みがない。

3.2.11 定住受け入れ活動に関する満足度

住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動

については、玉之浦のみやや満足、福江、緑丘、三井楽、奥浦でやや不満、大浜で不満であった。緑丘のみ事業があるがやや不満となっており、玉之浦では事業は見られないがやや満足と回答していることから、満足度と事業及び部会との関連性は分からない。しかし、まちづくり協議会としての事業はなくても、五島市の施策として空き家の紹介や定住者支援を行っているため、それらの取り組みによる移住状況が関係していると考えられる。

3.2.12 地区内での情報共有に関する満足度

広報誌や回覧板など、地区内での情報共有については、崎山、大浜、奥浦で満足、緑丘、富江、本山、久賀島でやや満足であり、12項目の中で満足度が最も高い。この項目に直接係る事業はないが集落支援員が広報誌を作成している。満足と回答した奥浦、大浜、崎山の3地区は比較的広報誌の発行部数が多く、発行の頻度も月に1回や2ヶ月に1回と頻度が高い(Table3)。一方、やや満足と回答した緑丘、富江、本山、久賀島の4地区の発行部数は最小で3号、最大で24号であり、頻度も月に1回から年に4回とばらつきがあるため、広報誌以外の回覧板等を用いた情報共有が行われていると考えられる。また、富江と本山は2021年から広報誌の発行頻度を2ヶ月に1回、月に1回としているため、今後さらに満足度が高くなると考えられる。広報誌以外の情報発信方法として、8地区がInstagramやFacebook、LINEのSNSを活用している。地域の情報共有に満足と回答した奥浦、大浜、崎山もこれらのSNSを活用しているが、奥浦地区以外は不定期に情報発信をしている。また、どちらも言えないと回答した岐宿や奈留島もInstagram及びFacebookを活用しており、更新頻度も月に1回や不定期とばらつきがあるため、SNSの活用が住民の満足度に直接つながるとはいえない。高齢化が進む地域では、広報誌を月単位で作成し、回覧板等を用いて情報発信するのが良いと考えられる。

3.3 事業・部会と満足度の関連性

満足度評価のアンケート全12項目を通して、満足及びやや満足の回答は53ヶあった。そのうち28ヶが事業と部会があり52.8%と半数以上を占めている(Fig.3)。事業のみが5ヶ9.4%、事業無しが20ヶ37.8%であった。また、やや不満及び不満の回答は35ヶあった。そのうち9ヶ25.7%が事業と部会もあり、事業のみが2ヶ5.7%、事業無しが24ヶ68.6%と半数以上を占めている。満足度が高いものはまちづくり協議会としての事業があり、満足度が低いものは事業がない傾向にあることが分かった。また、部会の有無と満足

度の関連性について考察する。満足・やや満足は、事業があるものが全体の62.2%でそのうち52.8%が部会もあるため、事業と部会があるものは84.9%である。一方不満・やや不満は、事業があるものが31.4%で、そのうち部会もあるものが25.7%であるため、事業と部会があるものは81.8%である。この結果から、部会の有無と満足度にあまり差は見られず、事業としての取り組みがあれば満足度が高くなっている。

4. 奥浦地区の取り組みと生活様式の変化

4.1 奥浦地区の人口、世帯数及び生活様式の変化

近年の奥浦地区の人口は2016年1月末の1,105人から2020年8月末には982人、世帯数は2017年2月末の602世帯から2020年8月末には579世帯と減少傾向にある。高齢化率は、2017年2月末の44.18%であったが、2020年10月末には47.46%と、人口減少と高齢化が進行している。住民アンケートによると、地域全体として定住意向が強いが、10代、20代は住み続けたいか分からないという回答が多く、若年世代を中心に転出している。また、アンケートの結果から、出生地別は、奥浦地区が53.7%であるが、地区外が36.2%にのぼる。

さらに、1968年と2017年の施設の変遷を見ると、2017年は、公民館が3軒、児童福祉施設が3軒、販売店が1軒、企業等が6軒と、生活を支援する施設が増

Table 3 各地区の情報共有の方法と頻度

	広報誌の数(号)	発行頻度	その他情報発信方法※1	情報発信の頻度
奥浦	86	月1回	Instagram・Facebook・チラシ・ポスター	月1-5回
椴島	29	年5回	-	-
久賀島	24	年4回	-	-
三井楽	23	年4回	Instagram・新聞	不定期
岐宿	23	2ヶ月に1回	Instagram・Facebook	月1回
大浜	20	2ヶ月に1回	Instagram・新聞・TV	不定期
崎山	16	月1回	Instagram・Facebook	不定期
奈留	15	2ヶ月に1回または不定期	LINE・Instagram・Facebook	不定期
富江	12	2021年から2ヶ月に1回	LINE・Instagram	2ヶ月に1回
玉之浦	12	年2回	-	-
本山	10	不定期→2021年から月1回	Instagram	半年に1回
緑丘	3	年に1-2回	新聞・TV	-
福江	2	年1回	新聞・TV	-

2021年9月現在

※1…市HP以外
不定期…イベントがあるときや何かあったとき

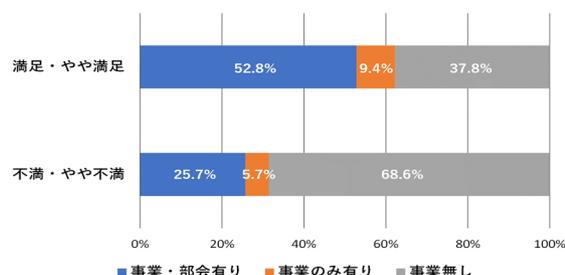


Fig. 3 事業・部会の有無と満足度の関連性

えており、1968年と比較して機能が充実している (Fig.4)。また、カフェが2軒、観光、宿泊施設が5軒拡充しており、観光や雇用の場も増えている。ヒアリングによると、観光が盛んになったことで転入者が空き家を利用し、カフェや宿泊施設にしているという。

4.2 奥浦地区のまちづくり

奥浦地区は、高齢化に伴い、人口維持を目的として2013年11月に奥浦まちづくり協議会を設立し5つの部会に分かれ、必要に応じて補助金等を得ながら事業を行っている。地域振興部会や環境保全部会では、滞在型観光を目指したフラワーロード事業や景観整備事業、保健福祉部会では、奥浦地区の住民の暮らしを支える買物支援バス、防犯防災部会では、奥浦独自の防災マップの作成や避難訓練がある。さらに、体育文化部会では、まちづくり協議会設立以前から行われていたナイターペタンク大会や蛍観賞会を行い、島内の住民同士の交流の場となっており、地域の活性化につながっている。

また、奥浦地区は民泊体験に力を入れており、2017年には県外の7校の修学旅行生と大学の研究室を、2018年には12校、2019年には9校の修学旅行生を受け入れている。これにより、2018年から民泊オーナーは体験型講習会に参加し、救命講習、アレルギー講習、衛生管理講習を受けたり、ソバや大豆の種まきと収穫を修学旅行生に体験してもらうプログラムを組んだりしている。

さらに、2020年9月頃にはまちづくり協議会あり方検討会議や住民アンケートを実施し、これまでの活動の成果検証や、住民の意見を聞くことで、活動内容を見直す機会を設けている。住民アンケートの結果から、

まちづくり協議会の活動に対して、参加、不参加にかかわらず、50.1%が地域活動に関心を持っており、さらに重要度と満足度に正の相関関係が見られることから、住民の重要度に応じた取り組みができていていると言える (Fig.5)。満足度、重要度共に最も高いのは「広報誌や回覧板などによる情報共有 (25)」で、奥浦地区は2017年4月以降まちづくり協議会が広報誌「よかとこおくら」を作成し、情報を発信している。つづく「草刈り、河川掃除などの維持管理 (2)」は、景観整備事業として除草作業を定期的に行っており、まちづくり協議会の活動が一助となっている。一方、重要度は高いが満足度が低いのは「地域の祭りや伝統文化の継承 (7)」, 「史跡など、地域の歴史に関する保全・管理活動 (8)」, 「見守り、配食サービスなど、生活支援 (16)」である。前2項目については、まちづくり協議会の事業になっていない。観光資源であるため、地域における位置付けを明確にし、担い手の確保や保全体制の確立が今後の課題と言える。生活支援についてまちづくり協議会では、車を持っておらず、買物に行くことが

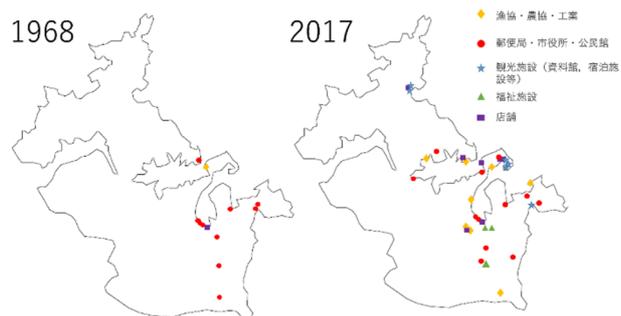


Fig.4 奥浦地区の施設の変遷



Fig.5 奥浦地区の各項目に対する満足度
奥浦地区住民アンケートより^{注2)}

困難な高齢者を対象に、見守りを兼ねた買物支援バスを運行している。しかし、満足度は約 20%と低く、支援を受けていない層の評価が低いと考えられる。暮らしの中の困りごとの中で「近くに商店がない」が 15%で最も多く、支援対象の拡大や物販拠点の整備等を今後検討すべきと言える。

転入者の受け入れに関して、「分からない」が 35.7%、「受け入れるべきでない」が 12.7%に対して 39.9%の住民が「受け入れるべき」と回答し、60 代以下は定住者の受け入れに前向きであった。ヒアリングによると、転入者の転入理由は、自然豊かな環境や住民の温かさに魅力を感じた人が多い。住民はアンケートでも、地域の魅力として、地域内の自然環境や助け合いなどの社会関係を挙げており、まちづくり活動が転入者増加に繋がっていると言える。

5.まとめ

五島市は、人口減少や高齢化が著しい中、地域活性化と人口維持を目的として、奥浦をはじめ 13 地区にまちづくり協議会を設立した。五島市全体として満足度が高かったのは、「地域や集落内の付き合い」「環境保全・美化」「高齢者対象の行事」であった。まちづくり協議会の事業として取り組まれている「環境保全・美化」「高齢者対象の行事」に関して、満足及びやや満足と回答した地区は全て関連事業があり、1 地区以外は担当部会もある。一方、五島市全体として満足度が低かったのは、「見守り、配食サービスなど、生活支援」「買い物・通院など、移動支援活動」であった。特に「生活支援について」は、やや不満の 7 地区のうち、4 地区で事業も部会もあったため、さらなる支援の進展が必要である。また、全項目を通して満足度が高いものはまちづくり協議会としての事業があり、満足度が低いものは事業がない傾向にあることが分かった。以上より、まちづくり協議会のように地域住民が地域の課題に取り組むことで、行政のみでは運用できない細かい事業を行うことができ、その結果地域の満足度が向上し、地域の持続性に繋がると言える。

さらに、奥浦地区は事業数が 43 ヶと 2 番目に多く、部会数も 5 部会と最も多い。また、情報共有の面でも広報誌の発行回数が 86 回と最も多い。奥浦地区では、福江に近い地域以外では人口減少が著しく、高齢化も進行しているため、買物支援バスを運行する等、住民の暮らしを支えている他、ナイターペタンク大会等町内会時代の行事の継承による地域交流の維持、民泊を通じた修学旅行生らとの交流機会の創出によって地域を活性化している。また、世界遺産登録後の交流人口

の増加を受け、観光客の短期滞在の促進や、空き家を利用したカフェや民宿を運営する転入者への支援を行っている。これらの取り組みに対して住民アンケートを行い事業の見直しを進めている。アンケートからは、約半数の住民が取り組みに関心を持っており、各事業の満足度と重要度に正の相関関係が見られることから、住民の重要度に応じた取り組みができていていると言える。しかし、祭りや伝統文化の継承、史跡などの保全、見守りなどの生活支援に対しては重要度は高いが満足度が低く、今後取り組むべき課題もある。また、暮らしの中の困りごとの中で、近くに店がなく生活が不便であると感じている住民が多いことから、買物支援対象の拡大や、物販拠点の整備等の検討が必要である。

離島では、若い世代の人々が進学や就職のため島外に出て行くことはやむを得ないが、奥浦地区のように観光を軸に雇用の場を整え、転入者を受け入れながら、高齢者の暮らしを支える事業を行い、双方をバランスさせている地域運営に学ぶ点は多い。

謝辞：本研究を進めるにあたって、資料提供及びアンケートにご協力頂きました五島市役所政策企画課及び地域協働課をはじめ、13 地区の集落支援員の皆様に深く御礼申し上げます。また、ヒアリング調査にご協力いただきました奥浦地区公民館の皆様に深く御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 奥浦地区まちづくりアンケート（2020 年 9 月に奥浦まちづくり協議会が、これまでの活動の成果検証をするため中学生以上の住民 624 人にアンケートを実施、回収率は 86.1%。）
- 2) 五島列島の高齢者と地域社会の戦略著者 叶堂隆三 2004 年出版
- 4) まるごとう：五島市統計書
<https://www.city.goto.nagasaki.jp/li/shisei/020/060/index.html>（2020.8.30 閲覧）
- 5) 「五島 奥浦郷土史」、おくら夢のまちづくり協議会会長 赤尾健野、平成 28 年 3 月 31 日発行
- 6) 奥浦地区まちづくり協議会広報誌
<https://www.city.goto.nagasaki.jp/community/li/050/050/010/index.html>（2020.7.30 閲覧）
- 7) 五島市町づくり協議会サイト
<https://www.city.goto.nagasaki.jp/community/040/050/020/200131170233.html>（2020.7.15 閲覧）
<https://www.city.goto.nagasaki.jp/community/040/050/010/200131162548.html>（2020.10.20 閲覧）
- 8) ゼンリン住宅地図：福江市 1968 年、五島市東 2017 年
- 9) 奥浦まちづくり基本構想、平成 27 年 3 月

注釈

- 注1) 社会増減＝転入者数（人）－転出者数（人）
注2) 文 1 の p.24